



News Release

プロ野球

ココロ動く、未来へ。
スカパー!

2022年12月13日
スカパー J S A T 株式会社

今シーズン、最も劇的なサヨナラ打を放った選手が決定！

2022 スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞 受賞者

パ・リーグ 宗 佑磨選手 (オリックス・バファローズ)

セ・リーグ 丸山 和郁選手 (東京ヤクルトスワローズ)

スペシャルゲストに井端弘和氏が登壇



スカパー! は12月13日(火)に「2022 スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」の表彰式を開催しました。表彰式には受賞選手である、オリックス・バファローズ・宗 佑磨選手(パ・リーグ)と東京ヤクルトスワローズ・丸山 和郁選手(セ・リーグ)が登壇しました。表彰式後には受賞両選手に加え、ゲストに井端弘和氏をお迎えしてトークショーも行いました。なお、表彰式とトークショーではアナウンサーの鈴木健さんとタレントの倉持明日香さんがMCを務めました。

表彰式では受賞選手の発表に始まり、受賞プレー紹介をした後、トロフィーと賞金が贈呈されました。宗選手(オリックス・バファローズ)は「エラーもバント失敗もあって、それまで最悪の試合だったが最後にいい場面で回ってきて、強い気持ちで臨んだことでいい結果になった」、丸山選手(東京ヤクルトスワローズ)は「コーチの言葉のおかげで落ち着いて打席に入れた、優勝を決める1打になって嬉しい」と打席を振り返りながら、受賞の喜びとともに挨拶しました。

表彰式後、会場では両選手と井端氏によるトークショーを行いました。受賞プレーをVTRで振り返る場面や共にチームがリーグ優勝を果たした今シーズンについてのトークを展開。宗選手は受賞プレーとなった「首位ソフトバンクに3連勝、ゲーム差なしとするサヨナラ打」を振り返り、日本一となった今シーズンの活躍などの感想を述べました。丸山選手は受賞プレーとなった「リーグ連覇を決める自身プロ初のサヨナラ打」を振り返り、感想を語りました。井端氏は、「優勝に関わる大事な試合での1打は素晴らしい! まだ若い選手たちなので期待しています!」と両選手の活躍にエールを送りました。

◎宗 佑磨選手（オリックス・バファローズ） コメント

この度は【スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞】をありがとうございます。オリックスからは初選出とのことで光栄です。あの試合は両チームにとって絶対に負けられない戦いの中で、僕自身はエラーもしましたしバント失敗もして、それまでは最悪の試合でしたが、最後にいい場面で回ってきて「絶対決めるぞ!」という強い気持ちでいった結果、あのような1本になったので本当に嬉しく思います。ありがとうございます!物欲がないので賞金は貯金します!

◎丸山 和郁選手（東京ヤクルトスワローズ） コメント

本日は【スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞】に選んでいただき誠にありがとうございます。あの打席に入る前に大松コーチから「腹を括って男になって来い!」という言葉を受けて、その言葉のおかげで落ち着いて打席に入ることが出来ました。また、プロ初のサヨナラ打が優勝を決める1打となって本当に嬉しく思います。あの時は興奮していてわからなかったのですが、後で見たら晃大朗さんがすごく蹴ってきていたので来年はやり返したいです(笑)

◎ゲスト・井端弘和氏 コメント

僕も「サヨナラ」を初めて打ったのが30歳だったんですが、それまで全く打てなくて「チャンスでは回ってくるな」とすら思っていました(笑)ただ、1本打てると不思議なものでチャンスで打てるようになるんですね。両選手の本当に大事な場面での1打はやっぱりインパクトがありましたし、文句なしですよ。素晴らしいと思いました!2人は2000本安打を超えてくる選手になるんじゃないかと期待しています!

■受賞プレー概要

宗 佑磨選手（オリックス・バファローズ）～首位ソフトバンクに3連勝、ゲーム差なしとするサヨナラ打～

宗選手は、9月19日（月）京セラドーム大阪で行われた対福岡ソフトバンク25回戦、同点で迎えた延長10回裏、二死満塁の場面でセンターへサヨナラ安打を放った。

オリックスは吉田正選手の2点本塁打などで3回までに4点リード。しかし4回表に3点を返されると、6回に投手陣が踏ん張り切れず逆転を許してしまう。試合はそのまま進み、1点ビハインドで迎えた9回裏二死一、二塁の場面で、吉田正選手がライトへの同点タイムリーを放ち、試合は延長へ。10回裏、オリックスは無死満塁と絶好のチャンスを作るが、後続が倒れ、二死満塁となる。打席にはこの試合2安打の宗選手。2球目の速球を強振すると打球は二遊間を抜け、サヨナラ適時打となった。

この勝利でチームは首位福岡ソフトバンクとの直接対決に3連勝し、ゲーム差なしに肉薄。リーグ連覇を目指すチームを勢いづける価値ある一打となった。

丸山 和郁選手（東京ヤクルトスワローズ）～リーグ連覇を決める自身初のサヨナラ打～

丸山和選手は、9月25日（日）神宮球場で行われた対横浜DeNA24回戦、0対0で迎えた9回裏、一死二塁の場面で左中間へサヨナラ二塁打を放った。

優勝へのマジックナンバーを「2」とした東京ヤクルトとマジック対象チームとの注目の一戦は、両先発の意地がぶつかる投手戦となった。東京ヤクルト・小川投手が6回を投げ、2安打無失点でマウンドを降りると、横浜DeNA・今永投手は7回を投げ、3安打11奪三振、無失点と両投手とも気迫の投球を見せた。0対0で迎えた9回表、マクガフ投手が3者凡退に抑え流れを引き寄せると、その裏、先頭打者のオスナ選手が内野安打で出塁し、続く中村選手がバントで送り、一死二塁のチャンスを作る。打席には8回途中からライトの守備についた丸山和選手。

1ボールからの2球目を強振すると、打球は左中間を破り、代走の塩見選手が一気にホームイン。

自身初となるサヨナラ安打は、チームのリーグ連覇を決定する一打となった。

■スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞

本賞は、レギュラーシーズンを通じて最も劇的なサヨナラ本塁打、またはサヨナラ安打などを放った選手（セ・パ両リーグの各1選手）に贈られる賞です。「最後の一球まで何が起こるかわからない」と言われる野球というスポーツの象徴的なプレーであるサヨナラ打を称える本賞は、プロ野球全12球団公式戦全試合を放送し、ファンのみならず胸が熱くなるゲームを最後までお届けしているスカパー!の想いと連動した賞であり、今シーズン記録されたパ・リーグ30試合、セ・リーグ29試合のサヨナラゲームの中から、「最も劇的な一打」を選出しています。受賞両選手にはそれぞれオリジナルトロフィーと賞金200万円が贈られます。

なお、2021年の年間大賞より、最も劇的な一打を表彰するという本来の趣旨はそのままに、本賞をファンの皆様とともに作り上げ、より親しみやすい賞にしたいとの思いこめて、受賞選手選出方法にプロ野球ファンの投票制を導入いたしました。

<<年間大賞 歴代受賞選手>>

年度	セントラル・リーグ	パシフィックリーグ
2009	亀井 義行（読売ジャイアンツ）	井口 資仁（千葉ロッテマリーンズ）
2010	天谷 宗一郎（広島東洋カープ）	小久保 裕紀（福岡ソフトバンクホークス）
2011	長野 久義（読売ジャイアンツ）	松田 宣浩（福岡ソフトバンクホークス）
2012	和田 一浩（中日ドラゴンズ）	中田 翔（北海道日本ハムファイターズ）
2013	長野 久義（読売ジャイアンツ）	浅村 栄斗（埼玉西武ライオンズ）
2014	福留 孝介（阪神タイガース）	松田 宣浩（福岡ソフトバンクホークス）
2015	雄平（東京ヤクルトスワローズ）	柳田 悠岐（福岡ソフトバンクホークス）
2016	鈴木 誠也（広島東洋カープ）	吉村 裕基（福岡ソフトバンクホークス）
2017	宮崎 敏郎（横浜 DeNA ベイスターズ）	栗山 巧（埼玉西武ライオンズ）
2018	下水流 昂（広島東洋カープ）	森 友哉（埼玉西武ライオンズ）
2019	高山 俊（阪神タイガース）	鈴木 大地（千葉ロッテマリーンズ）
2020	西浦 直亨（東京ヤクルトスワローズ）	井上 晴哉（千葉ロッテマリーンズ）
2021	坂倉 将吾（広島東洋カープ）	岡 大海（千葉ロッテマリーンズ）

リリース情報は、スカパー! 公式サイトにも掲載されております。<https://www.skyperfectv.co.jp/>